

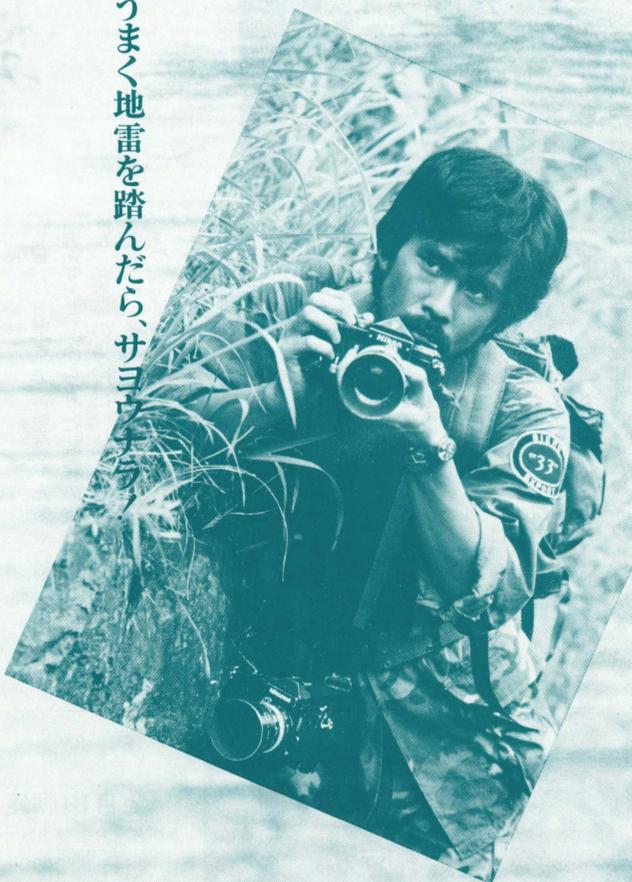
自由とカネと栄光と……

泰

造

プロデューサー ●
木下忠司 + 相澤徹
企画・製作 ● 関根光致子

もし、うまく地雷を踏んだら、サヨク



東映

1978

自由とカネと栄光と……

●出演
岡本早生(新人)
小林桂樹
中原ひとみ
趙 方豪
光石 研
望月真理子
篠山葉子
丘山未央
小倉一郎
河原崎次郎
土屋嘉男
真野響子
岡田英次
山口 崇

●スタッフ
企画・製作＝関根光致子
プロデューサー＝木下忠司
相澤 徹
原作＝一ノ瀬泰造
「地雷を踏んだらサヨナラ」(講談社刊)
原作＝一の瀬信子
「わが子泰造」合同出版刊
脚本＝かがみおさむ
撮影監督＝岡崎宏三
(J・S・C)
監督＝渡辺範雄
音楽＝木下忠司
照明＝牛来邦彦
美術＝望月正照
録音＝矢野勝久
編集＝菅野善雄
記録＝横坪多鶴子
助監督＝山口 巧
撮影協力＝
佐賀県武雄市
佐賀県有田市
十四代酒井田柿右衛門
共同通信
フィルム提供＝
NHKサービスマスター
中日映画社
●協力＝**Nikon**
Pentax
●推薦＝
優秀映画鑑賞会
日本ユネスコ協会

私の青春時代は戦争(軍国主義)が夢を育んでくれなかった。

一ノ瀬泰造君は、自由と金と栄光を求めて若者のすべてをその夢に賭けた。26年の短い生涯だったが、母への手紙に、「好きな仕事を命をかける幸せな息子が死んでも悲しむことないヨ」と書き残している。

それから13年、今日有り余っている自由の中で、どれだけの若者達が将来の夢に向かって駆け出しているのだろうか。

プロデューサー 木下忠司



●一ノ瀬泰造の略歴

昭和22年11月1日、佐賀県武雄市生まれ。昭和45年、日本大学芸術部写真学科を卒業後、UPI通信社東京支局で働く。

昭和47年3月、カンボジアの戦場に立ち、フリーの戦争カメラマンとしてスタート。以後ベトナム戦争を一年間(昭和47年7月～48年6月)取材、アサヒグラフ、ワシントンポストなど内外のマスコミで活躍した。昭和48年11月22日か23日、アンコールワットへ単独潜行したまま消息を断っている。当時26歳。

ストーリー

1972年1月20日、故郷武雄の母親の元へ「ベトナムへ行く」という電話を入れて、一ノ瀬泰造(タイゾー)は羽田を発った。

報道写真家を目指すタイゾーにとって、ベトナムの戦場こそが一発で名を挙げるチャンスのある場所だった。

一匹狼で何のコンネもないタイゾーは、直接ベトナムへ入ることは出来なかったが、途中寄ったブノンペンで接したカンボジアの人々の温かい人柄と、望遠レンズで見たアンコールワットの偉容に、彼は強く引き付けられた。ようやくベトナム入りしたタイゾーは、成功への近道である「ピュリッツァー賞」を狙って、戦場がむしやりに写真を撮りまくった。しかし、現実の戦斗はタイゾーの野心を超えていた。

「無鉄砲かつくだ、弱いボクサーあがりのフリーカメラマン」と、知人への手紙で自らおどけてみせたタイゾーだったが、次第に戦争カメラマンとして認められるようになり、「UPI月間賞」を取るまでになった。

ベトナム戦争も一段落して、次のタイゾーの狙いは、いよいよアンコールワットだった。そんなある日、タイゾーは突然日本へ帰っ

て来た。東京で、恩師や先輩や親友と旧交を温めると、ふらりと故郷の武雄に姿を現わした。突然の帰郷に、父母も姉たちも驚き喜ぶと共に、その理由を次姉の結婚式の為だと思つた。だがタイゾーは、その日式には出席せず、カメラを持つと、焼き物の町有田へふらりと足を向けた。

学生時代の彼の習作の一つが「有田の匂い」だった。その時、名匠柿右衛門の所で知り合つた、陶芸家志望の仲川郁子との再会は、タイゾーにベトナムも姉の結婚式も忘れさせた。「自由とカネと栄光――」

タイゾーは目を輝かせ、自分の抱負を郁子に語るのであった。

数日後、弾丸が貫通して不気味に穴の開いたカメラを残して、タイゾーは両親に別れを告げ、再びベトナムへ向つた。

戦場へ戻ったタイゾーの目標はアンコールワットだった。ベトナムやブノンペンからいくつかの写真記事を送ったタイゾーはいま、最大の目標に向う決意に燃えて、カンボジアの夕景を眺めていた。

「こんなに美しい夕焼けを毎日眺められるカンボジアの人の眼は美しくなるはずだ……」タイゾーは一人、アンコールワットへ向って歩き出した。

「もし、うまく地雷を踏んだら、サヨウナラノ!」

タイゾーは再び帰っては来なかった。

1973年11月のことである。時にタイゾー、26才。

20,000枚のネガと大量の手紙を残して、いま、タイゾーはいない。

10月18日(金)ち
ロードショー
特別鑑賞券¥1200発売中
(当日¥1500均一の処)

シネマスクエア
とうきゅう
新宿ミラノ座横3F (232) 9274

全自由席定員制 ● 入替制
※満席および上映中の入場はできません。
連日 12:30 2:40 4:50 7:00
●毎金・土曜はレイトショー実施/9:10より